

1 教科について

国語

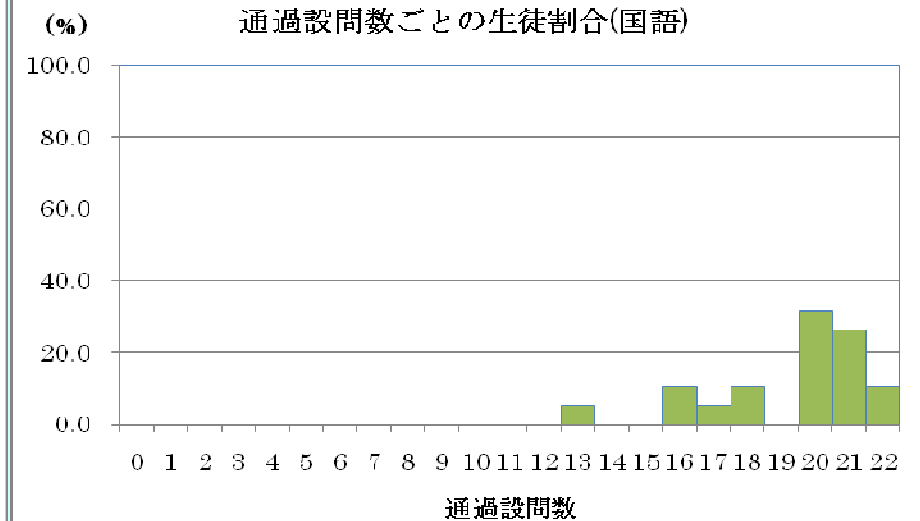
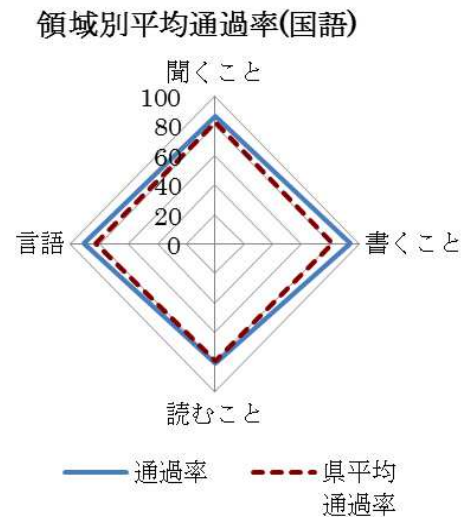
昨年度の課題

- ①「登場人物の心情の把握」「文脈上の語句の理解」の通過率が低い。相手の立場に立って考えることやその考えを論理的に表現することに課題がある。
- ②「文章の展開」や「段落相互の関係」の把握の通過率が低い。文章の展開を正確にとらえることに課題がある。
- ③「漢字の読み書き」の通過率が低い。日常的な漢字学習の習慣化に課題がある。

昨年度の課題を受けて
具体的に取組んだ事項

- ①「読むこと」の指導において、ワークシートやノートの整理を通して、「文章の構成・展開」や「登場人物の心情」等を論理的にとらえ、自分の言葉で表現できるよう、工夫・改善する。
- ② 言語事項における知識内容を、技能面とあわせて系統的に指導することによって、理解・習熟の状況の徹底・改善を図る。
- ③ 全体と部分、事実と意見の関係を正しく「聞くこと」を意識させ、場面に応じた内容についての聞き取りテストを定期的実施し、問いに対する適切な応答の表現を身につけさせる。
- ④ 言語活動の充実を図るため、事実と意見・感想の違いを意識した小作文、時・場・相手・状況を考えた話し方を中心に指導する。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 87.8% 県平均 81.0%



重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査
◇:全国学力・学習状況調査

- ◎ (言語の知識・技能) 場面に応じた敬語を適切に選択することができなかった生徒が52.6%いた。
- ◎ (説明文の読み取り) 文章の展開に即して段落相互の関係を捉えることができていなかった生徒が57.9%いた。
- ◇ (説明文の読み取り) 目的に応じて情報を読み取ることができなかった生徒が、82.4%いた。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- 【小中一貫】書いて話す活動の充実
- ①学習場面を中心に、相手や場面に応じて、を意識多様な表現や語句の中から、場面に応じた言葉を適切に使うことができるように指導する。
- ②段落どうしの関係や段落の役割などに着目させ、文章の構成をとらえさせる学習を継続的に積み上げる。
- ③「読むこと」の学習を中心に、主体的な学びになるような工夫をし、目的意識・相手意識を明確にして、的確に情報を収集し、再構成して表現する学習を繰り返す。

来年度の目標値

- 通過率60%以上の生徒を95%以上にする。
- 「読むこと」の通過率85%以上にする。

指導方法等の改善計画について

数 学

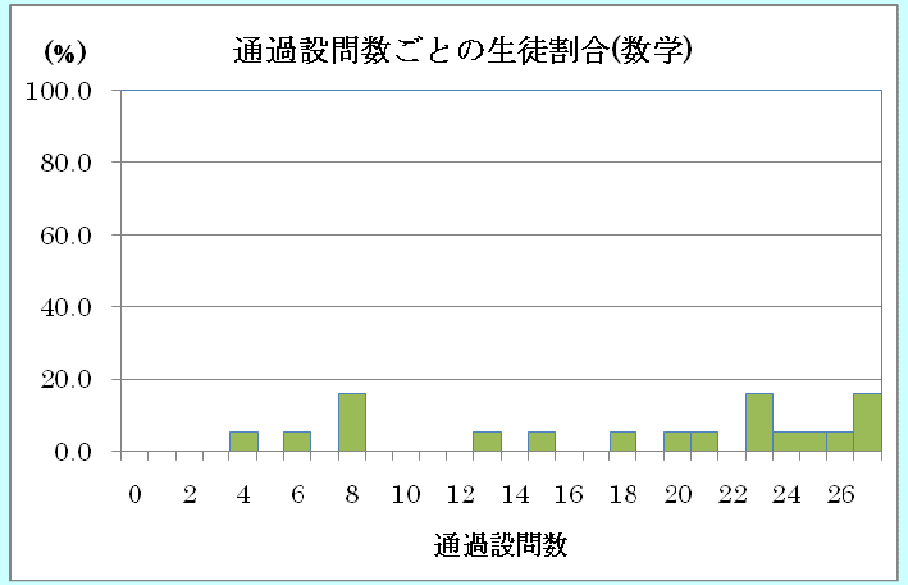
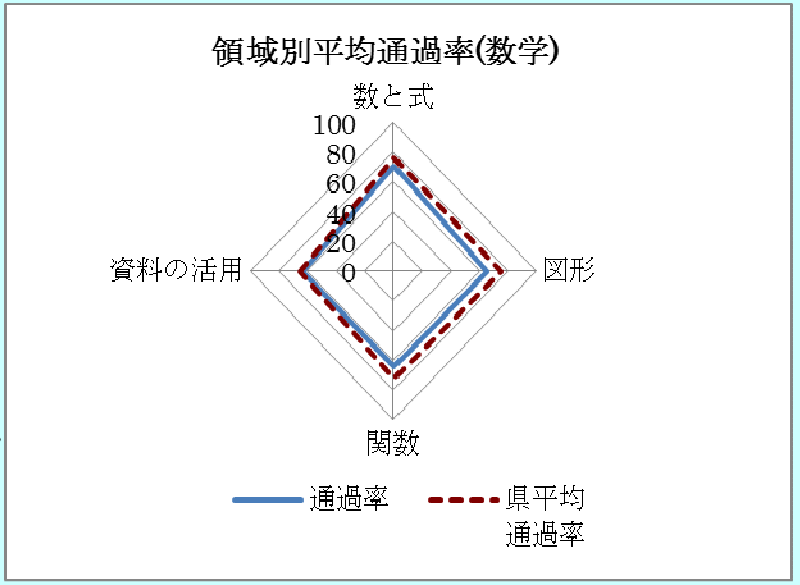
昨年度の課題

- ①数と式の領域において、数量の関係を、文字を用いた式で表したり、文字式の意味を読み取ったりすることが難しい。
- ②2つのグラフを関連付けて考えることが難しい。
- ③相対度数の意味が理解できておらず、度数分布表から相対度数を求めることができない。

昨年度の課題を受けて 具体的に取組んだ事項

- ①具体的な場面で、数を用いて数量関係を表す練習を行い、その延長として文字を用いて数量関係を表すことをさせる。その中で、文字を用いる良さに気付かせる。
- ②身近な教材を用いてグラフをかかせ、興味関心を持たせる。その中で、2つのグラフを比較し、同じ点や違う点をさがすことで、グラフの関係に気付かせるような指導を行う。
- ③普段の生活の中から資料を取りあげ、興味関心を持たせる。また、その資料を、どのように工夫したら見やすいものになったり、比較しやすいものになったりするか考えさせながら指導を行う。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **67.4%** 県平均 **74.1%**



重点課題

- ◎: 「基礎・基本」定着状況調査
 - ◇: 全国学力・学習状況調査
- ◎数と式の問題で、数量関係を、文字を用いて表すことが難しい。
- ◎関数関係を見つけたり、それを式に表したりすることが難しい。
- ◇論理的に物事を考え、文字式などを用いて、筋道を立てて自分の考えを説明することが苦手である。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- 【小中一貫】書いて話す活動の充実
- ① 具体的な数と文字を関連付けさせながら数量関係を表す練習を個別指導を交えて繰り返し行う。その練習の中で、文字で表すことのよさに気付かせる。また、文字式や方程式の計算などは、正負の数の計算を繰り返し練習させながら、それをもとに反復練習をさせる。
 - ② 身近な内容を教材にすることにより、興味関心を持たせる。ともなうて変わる量をまず見つける指導を行う。関数の特徴を、グラフの形などとも関連付けながら指導していく。
 - ③ 筋道を立てて説明するためのポイントを見つける練習をさせる。また、相手に理解してもらうために、発言の仕方などにも工夫が必要であることを指導し、授業の中で実践させる場を作る。

来年度の目標値

- 本校通過率を県の通過率以上にする。
- 通過率30%未満の生徒の割合を0にする。

指導方法等の改善計画について

英語

昨年度の課題

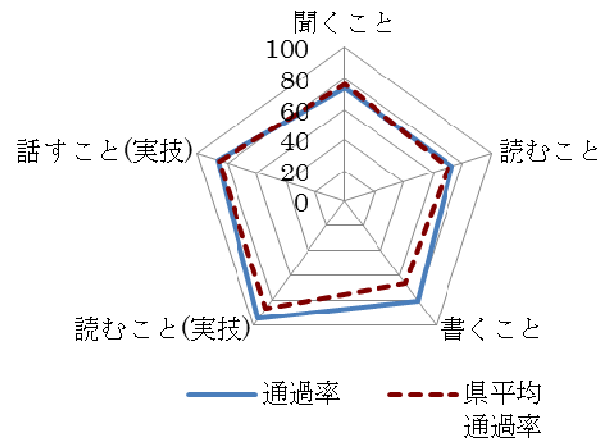
- ①「書く」領域が 48.4%と最も低く。基本文型の習得に課題がある。初歩的な表現を用いて、場面に応じた文を書くこと、または、相手にわかりやすく伝えるために、英文のつながりを考えて書くことが苦手な生徒が多い。
- ②通過率が低かった問題で、共通点があったのが、疑問詞 what を用いて「何をするか」「何をしたか」をたずねる疑問文を作る問題である。
- ③前後のつながりを考えて代名詞を使うことが苦手である。

昨年度の課題を受けて 具体的に取組んだ事項

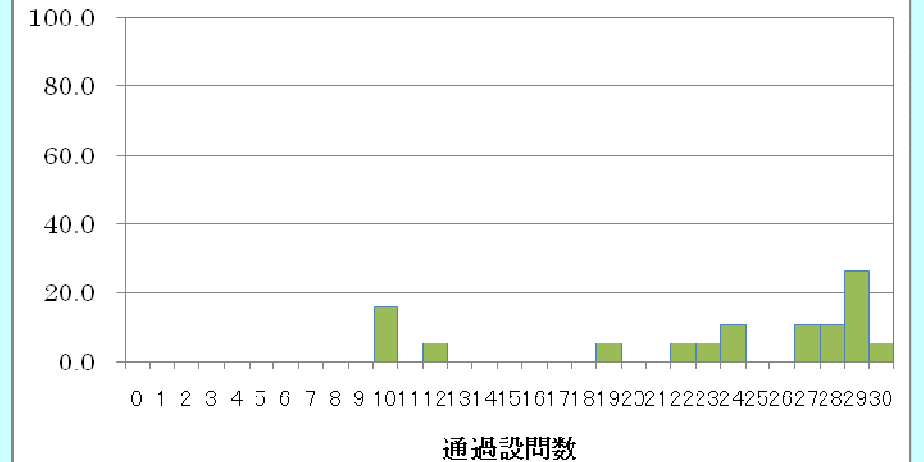
- ①「書くこと」において、基本文型の習得に重点をおき、特に be 動詞と一般動詞の違いを意識させながら、それぞれの肯定文・疑問文・否定文の反復練習をする機会を数多く与える。学んだ文法をくり返し練習し、自然にフレーズが出てくるように音読や口頭練習を徹底させる。
- ②Yes-No で答えることのできる疑問文だけではなく、ペアでの会話や自己表現等で、疑問詞を使った疑問文を使う機会を増やしていく。
- ③自分の考えや気持ちなど読み手に伝わるように、また前後のつながりを考えて、代名詞を使うことを意識させながら英文を書くように指導する。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **77.0%** 県平均 **74.2%**

領域別平均通過率(英語)



通過設問数ごとの生徒割合(英語)



重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査

- ◎4領域の中では、「聞く」「読む」領域が、73.7%、72.5%と低かった。まとまりのある英文を聞いたり読んだりする際、その内容や概要、要点を理解するのが苦手な生徒が多い。
- ◎最も通過率が低かったのは、「読むこと」の「助動詞についての知識があり、会話文を組立てる」で be 動詞と一般動詞の使い方の違い、それぞれの肯定文・疑問文・否定文の表現方法の習得が十分ではない。
- ◎話の流れをつかみながら、代名詞の中身を理解して、内容を的確に読みとる力が弱い。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

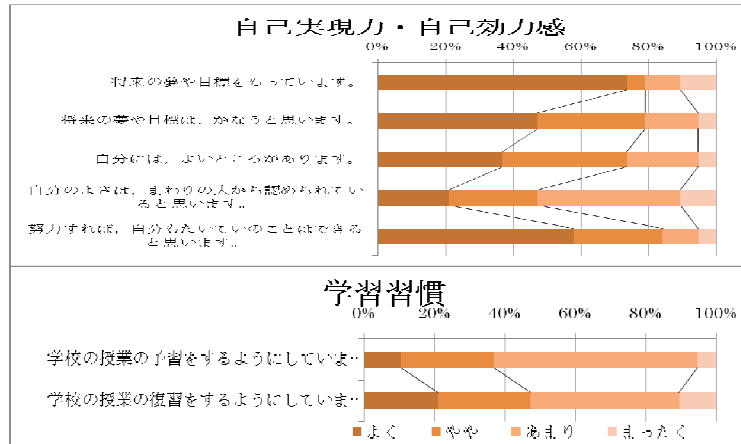
- 【小中一貫】書いて話す活動の充実
- ①「聞くこと」において、内容理解につなげるために、聞き取り練習やテストでは、聞き取りのポイントを示し、意識して聞くように指導する。類似した発音の語を正確に聞き取らせるために、モデルを提示しながら個別指導を交えて口頭練習をしっかりと行い、違いを理解させる。
 - ②「読むこと」において、概要や要点、必要な情報を理解するために、それらを構成する語句や文が表す意味をとらえることができなければならない。今後も、基本文型の習得に力点をおいて、それぞれの肯定文・疑問文・否定文の反復練習をする機会を数多く与える。学んだ文法をくり返し練習し、自然にフレーズが出てくるように音読や口頭練習を徹底させる。

来年度の目標値

- 通過率60%未満の生徒の割合：20%以下。
- 「聞くこと」「読むこと」に関する領域の今年度と比べ+5ポイント。

2 質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査, 生徒質問紙調査) (全国学力・学習状況調査：学校質問紙, 生徒質問紙)

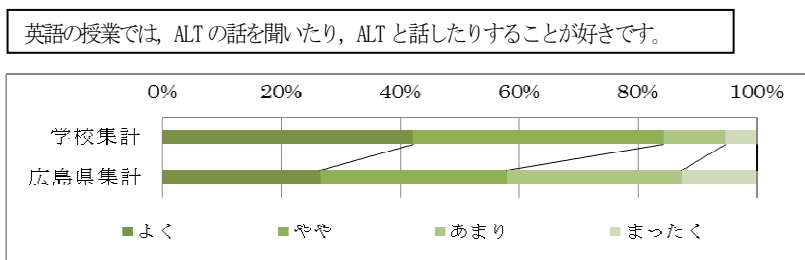
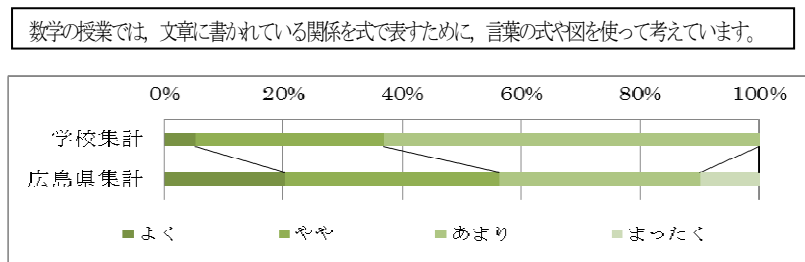
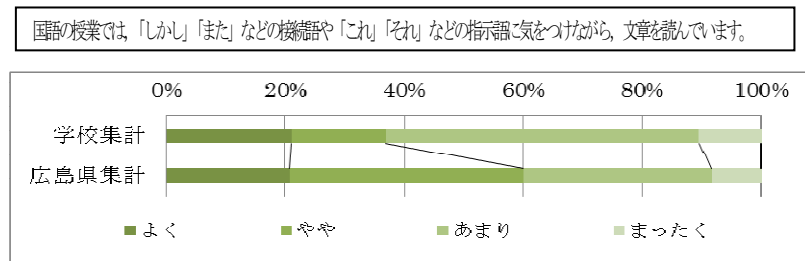
(1) 生活・学習



改善したい点 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	今後の具体的な取組の内容
◎目標や夢について、比較的前向きに考えている生徒が8割程度いるが、「まわりから認められている」という生徒は47.4%しかいなかった。自己効力感を感じさせる取組が必要である。 ◎「予習をするようにしている」36.8%、「復習をするようにしている」47.4%であった。◇「予習をしている」22.2%、「復習をするようにしている」27.8%であった。家庭学習の時間を増やすことが課題である。	◎教科学習や総合的な学習の時間などにおいて、協働的な活動の機会を生み出し、自己効力感を高める取組に改善する。 ◎◇家庭学習と授業や教科間の学びの連鎖を工夫し、学習意欲の形成につなぐ。また、家庭と連携しながら、学習環境作の整備を要請する。

来年度の目標値	・自己効力感に関わる項目の肯定的な回答率 平均80%以上 ・「予習をするようにしている」「復習をするようにしている」平均60%以上
---------	--

(2) 教科



	生徒の回答と学校の指導についての課題 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	◎接続語や指示語、段落と段落のつながりや、文章の構成について注意して文章を読むことの意識に課題がある。説明文の指導において、文章の展開や構成の工夫を読み取ることの指導を工夫する必要がある。 ◇必要や目的に応じて情報を読み取ったり、効果的に伝わるように文章を工夫したりすることについての指導に課題がある。	・既習事項を利用しながら、文章の展開や構成の工夫を意識的にとらえさせ、知識の定着を図る。読み取った文章構成などに関わる情報を活用して表現する言語活動を位置づける。 ・主体的な学習活動を設定し、条件や必要、目的に応じて情報を収集して表現させる指導を位置づける。
数学	◎数量関係を式に表すために、言葉の式や図を使って考えている生徒が少ない。 ◇理由をあげて、自分の考え方や解法が説明できている生徒が少ない。	・数量関係を式に表すために、いきなり文字式で考えずに、言葉や図を使って説明させる時間を取るようにする。そのために、言葉や図を使って考えるよう、繰り返し指導をしていく。 ・班などの少人数での話し合いの時間を意図的にとり、その中で自分の考えを説明させる。また、言葉を使って説明する際のモデルパターンを知らせる。
英語	◎英語の授業は、他の教科や生活の中で役に立つという意識はあるが、英語の勉強や授業に対する意欲は高くない。学習活動では、ALTと英語で会話をしたり、ペアやグループで活動したりすることは好きであるが、単語や文をくり返して練習するというような習得に時間のかかる活動には、意欲的に取り組むことが難しい。	・授業の活動内容を見直し、自分の考えや気持ちを英語で話す活動など、意欲につながるような授業の組み立てを図り、ALTとの授業の内容も充実させる。 ・毎時間の授業のねらいを明確にし、個々の活動に対しても、具体的な目標を設定し、達成度を示すことで、授業の個々の活動に対する意識付けを行う。

来年度の目標値	・国語「読むこと」の段落、接続語・指示語に関わる意識について：今年度+10ポイント ・数学「理由をあげて自分の考えを説明する」という意識：今年度+10ポイント
---------	--

指導改善のための実施スケジュール

